

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福社会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成20年12月 第94号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

認知症サポーター養成講座とネットワーク論

今、全国で100万人の認知症サポーターを養成しようと、講座が各地で催されています。ここで今一度、講座の原点を確認しておきたいと思います。

まず、講座は『認知症の人に学ぶ』事が原点です。認知症の人は、ベストを尽くして懸命に生きています。『ベストを尽くす』のは、人が生きる事を評価する際の最も基本の普遍的な物差しであり、糸賀一雄先生が言われた『この子らを世の光に』とも共通する視点です。徘徊し歩き回っているその一瞬が、今の持てる力でベストを尽くしてチャレンジしている、最も輝く瞬間である事を認める視点を持ちたい、と願います。

そして遠からず、必ず『死』を迎えて人生が完結します。其処では、『死を避ける努力』以上に価値のある行為を見つける『物差し』が必要です。QOLを学ぶ絶好の機会である事を認識したいと思います。

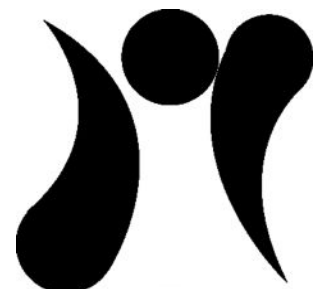
20世紀の百年で、認知症の人や知的障害のある人を始め、多様な個性や価値を持つ人々が共存し、夫々が自らを輝かせて生きる社会こそが、許容量が大きく活力を永く維持できる事を、世界の多くの国々が学びました。日本も今その入り口に入り、ユニバーサルデザインの街づくりや、外国人労働者の受け入れ等、社会の許容量を大きくする試みが各分野で始まっています。

更には、夫々の人の心の中に、自らの老いへの許容量を大きくする事を学ぶ絶好の機会だと思えます。誰もが、老いによる心身機能の低下を受容し、死を受け入れ、安らかに最期を迎える準備が必要です。

介護は、個人にとっても地域社会にとっても迷惑との出会いではなく、人間の特性である社会性と思想を育む、長寿の貴重な贈り物との出会いです。介護を通して、永遠の命を信じる心が育ち、思想や宗教が確立する社会への歩みが始まります。

(次ページにつづく)

せいりょう園 渋谷 哲



平成20年度第3回グループホーム運営推進会議の報告

日 時 平成20年12月6日(土) 14:00～16:00

場 所 せいりょう園1Fホール

参加者 推進委員9名 入居者家族4名 職員1名

議題

1. 行事報告
 - ・ 介護者の集い
 - ・ 外部評価
 - ・ 運動会
 - ・ 造形教室
 - ・ 2市2町グループホーム協会勉強会
2. 実習生受け入れ実績
3. 感染症について
4. ターミナル報告 　　まどか　2例
5. ひやりはっと事故報告
6. 職員異動報告
7. 認知症サポーター養成講座＝認知症の人に学ぶ講座
地域支援センターに寄せられた相談内容の中から3つの事例を説明後、
認知症サポーターの役割とは何かを考える
 - ・ 認知症があっても街を歩く権利はある。そしてその裏側には義務と責任が生じる
 - ・ 生きる力が少なくなった人程、全力を尽くして生きている。そのことを社会は評価すべきである
 - ・ 多様な価値観を共有できる地域こそ永く社会活力を持続できる
 - ・ 心身の機能が低下しても社会人として普遍的な価値がある。個々の許容量と社会全体の許容量が大きくなることで、その実感を得ることができる
8. 意見交換
 - ・ 入居者家族から
 - * 認知症の方の徘徊を見守ることはかなり大変だなと思う
 - ・ 委員から
 - * 地域全体で認知症の方に対する意識改革をしていかなければと思う
 - そのための学習会、研修会等の必要もある
 - ・ 地域の中でのセーフティネットについて
 - * ネットワークづくりは必要であるがネットの目を細かくし過ぎない方が良い

英国の13歳の少女が延命を拒否した話

地域支援センターのぐち南
ソーシャルワーカー 吉田 知一

せいりょう園では、医療・福祉に関する新聞の切り抜きを各部署で回覧して読む機会があります。その中で感銘を受けた記事がありました。それは、半年の命と宣告された英国の13歳の少女が延命を拒否した、というものでした。朝日新聞に掲載されていた内容を載せたいと思います。

英13歳少女「最期は家で」

病院を説得、延命拒否

【ロンドン=土佐茂生】半年の命と宣告された英国の13歳の少女が、延命策としての心臓の移植手術を拒否した。病院側は手術の実施を求めて法的手段を試みたが、少女自らが説得して断念させた。病院ではなく自宅で家族に囲まれ、普通に暮らしながら死んでいく権利を勝ち取った。

英メディアによると、英中西部ヘレフォード近くに住むハンナ・ジョーンズさんは5歳の時、白血病を患った。心臓に穴を開けて化学療法を受けるなど入退院を繰り返し、過去2年間で数回の手術を受けた。それでも心臓の10%しか正常に機能しない状態で、今年7月には医師から余命半年と告げられた。

病院側が勧める心臓の移植手術は、成功する可能性は高くなく、白血病が再発する恐れもあった。ハンナさんは失敗して病院で死ぬより、家族と暮らすことを選び、移植手術を拒否、自宅に戻った。ところが、病院側は手術の実施こそがハンナさんの命を助ける手段と思い、裁判所に提訴して家族からハンナさんを引き離す意向を伝えてきた。

これに対して、ハンナさんは「小さい時からずっと病院で、ひどい思い出ばかりだった。家族と離れたくない」と訴え、病院側に提訴を断念させたという。

(2008年11月15日 朝日新聞より)

この記事を読んで、この少女が選んだ選択に素直に感動したのと、自宅で家族に囲まれ、普通に暮らしながら死んでいくことが、いかに難しいかを考えさせられました。

自分の家で家族と共に最期を迎えたいという少女の思いがあるにも関わらず、病院側は手術の実施こそがハンナさんの命を助ける手段だと思い、手術の実施を求めて法的手段まで試みた。病院側は、悪気があった訳ではなく彼女の為を思って、善意で裁判を起こそうとしました。しかし、結果的には彼女の自己実現の妨げになったのです。

支援センターで相談を受ける際、本人が何を望んでいるか、どうなりたいのかを聞き取ります。その中で、どのような最期を迎えたいか、という話も早い段階でさせてもらうことがあります。この場合、相談者本人は、延命しないで自分の家で自然に亡くなりたいたい、という思いがあったとしても、家族は、とにかく救急車を呼んで少しでも長く生きて欲しい、というように意見が違う場合があります。家族だけではなく、この記事のように病院や地域など、本人を取り巻く関係者の様々な思いがあり、それぞれの価値観が違ってきます。たとえ家族であったとしても価値観は違っているのが当たり前で、どのような最期を迎えたいか、という話し合いをしないことには、お互いの思いが違っていることにすら気づかず、善意から本人にとって良い選択だと思ってしていることも、本人の思いとかけ離れていることがあります。どのような最期を迎えたいか、という問いかけは、すごく戸惑う大切な話です。本人、家族には何度も話して確認していく必要があるなと感じます。

この記事では、少女自らが、お互いの価値観が違うことを病院側と話し合っただけで自宅で家族と暮らしながら死んでいく権利を勝ち取っています。しかし、この少女とは違い、自分で訴えることの出来ない方がたくさんいらっしゃいます。私は、本人、家族、地域の思いを話し合える場を作っていくことのできる、ソーシャルワーカーになりたいと思っています。

せいりょう園12月の行事

- | | |
|--|--------------------------|
| 12月 6日(土) 園長との懇談 | 12月22日(月) 消防訓練 |
| 12月 7日(日) 第18回ロンドンアンサンブル | 理容の日 |
| 12月 8日(月) 仏教講話 | 12月23日(火) サックス演奏 |
| 12月12日(金) 昼食会(うどんすき)
ひより手芸教室 | 12月24日(水) クリスマス会 |
| 12月17日(水) 郷土料理(カツ飯) | 12月25日(木) お餅つき |
| 12月19日(金) 美容の日
ひより手芸教室
介護者の集い | 12月26日(金) ひより手芸教室 |
| 12月21日(日) 冬至 | |



12月7日

☆第18回ロンドンアンサンブル☆



グループホーム
石谷寛三様

• 年の瀬や 自分の歳を

忘れがち



• あの世とは どんな街か 見てみたい

赤いポストがあるそうなの

• 人は人の笑顔に癒される

• 朝食時 雑談はずんで 喰いはずれ

• その日の楽しみは 朝 見つけよう！

• 喰って寝て 又喰って

俺の人生喰うだけか

• 長生きを カゲで助ける

紙おむつ



ケアハウス等空き情報

<平成20年12月15日現在>

ケアハウス

・ 恵泉	: 若干	・ 青山苑	: 1 人部屋 1 室
・ シスナブ御津	: 1 人部屋 1 室		: 2 人部屋 1 室
・ むれさき苑	: 1 人部屋 1 室	・ アゼリア	: 1 人部屋 1 室
・ めぐみ苑	: 1 人部屋 3 室		: 2 人部屋 2 室
・ せいりょう園	: 1 人部屋 1 室		

[問合先]せいりょう園介護相談室

(079)421-7156/(079)424-3433

せいりょう園待機者状況

<平成20年12月17日現在>

入所判定済み者 310名 グループの内訳
グループ... 120名
グループ... 129名
グループ... 61名

○入所判定済み者の現在状況

在宅120名 / 特別養護老人ホーム入所中5名 / 医療機関入院中82名
老人保健施設入所中92名 / ケアハウス入居中3名 / グループホーム入居中6名
辞退その他: 死亡 2名



本年最後の仏教講話は東神吉町神吉にある浄土真宗東本願寺大谷派の真宗寺、邨上ご住職に来て頂いた。ご住職は大学をはじめいろんな所で授業、講話を持たれているそうで、この日も会議を終えて来られた。

話の枕に、今NHKで人気沸騰の「篤姫」に絡み、浄土真宗との因縁と言うか、関わりについて述べられる。

篤姫から同派に幕が寄贈されたとか。残念ながら幕末の蛤御門の変で朝廷と薩摩藩の追撃から逃れる際、長州藩士が東本願寺に火を放ち消滅してしまったとのこと。何故に東本願寺に火が放たれたかは、中に徳川家康が祀られていた祠(ほこら)があった為、幕府憎くさで「最後っ屁」での仕業であつたらしい。どうして東本願寺内に家康の祠があつたかと言うと、建立の際、徳川幕府から大量の材木の寄進があつたが、すでに信者からの援助で寺の建立は充分であつた為、それでは祠でも建てるかということで実現したらしい。

篤姫との関係はともかくデショウの島津藩は念仏禁止令を布いており、信者は隠れ念仏(柱をくりぬいて彫り込んだ仏像)を拝んだという。

いつの時代も又、いづれの国でも宗教に対する時の権力者・勢力からの弾圧があり、同派の開祖親鸞聖人も新潟地方へ流罪となつた事、そしてそこから親鸞聖人について話は進む。

私の乏しい知識では『親鸞聖人』と聞けば、『歎異抄』：善人なおもて往生をとぐ、いはんや悪人をや(悪人正機説)が想いおこされるくらいだ。親鸞聖人は当時法然上人に妻帯を許された稀有な僧ではなかつたか？

赦免された親鸞聖人は京都に戻らず、信濃、下野、常陸と関東各地を遍歴して教化に努め、常陸の稲田で『教行心証』を著し浄土真宗の基礎を置いた。60歳頃になって、帰洛し(京都に戻る)、教化と著述に努めた。

『教行心証』の行巻末に収められている「正信偈(しょうしんげ)」に親鸞聖人の教えが凝縮されており、「正信」とは正しい信心のことで、神や仏を信じることだけが信心ではなく心で何かを支えとし、頼りにしているのは、皆、信心である。本当に幸せになりたければ、決して裏切られない正しい信心(迷信ではない)を持ちなさいと、正信心一つを親鸞聖人が明らかにされているのが「正信偈(しょうしんげ)」と説かれる。

この辺のところはかなり難解であつたが「我々一人ひとりが社会を構成するメンバーであり、年、体調に関係なく、考えることが出来る間は生きる覚悟が必要である。生き抜くことが大切である。さもないと刹那的な世になってしまう。皆さんは何を願って生きて来られたか？

「雑行を捨て、本願に帰す」(小さい事はよいから、自分が生きてきた証を残しましょう。)親鸞聖人は85歳になつても夜眠れないくらい悩んで悩んで悩み抜かれたと説かれる。

次年度の仏教講話は1月お休みで、2月となる。

喫茶ルーム『ラヴィック』より

寒さも一段と厳しくなり、今年も余すところあと僅かとなりました。

私共喫茶ラヴィックでは7月3日より笹岡シェフを迎え、職員3名・非常勤3名の計6名の在籍となり、日に3名ずつ勤務して喫茶運営を行っています。

笹岡シェフは洋食一筋40年のベテランシェフで、喫茶店・ホテル・洋食屋さん・ステーキ屋さんなどの施設で腕を振るってきました。新しい店舗の切込み隊として活躍したり、高速道路サービスエリアでの料理コンテストにおいて、準グランプリを受賞した経験もあります。これを受け、



喫茶ラヴィックではメニューの改良に、より一層の力をいれております。

特に日替わりランチには、新しいメニューを盛り込み、鉄板を使用した料理提供を視野に入れるなどの、様々な試みを行っています。また、従来の献立においても、調理法や盛り付け方を変化させるなど、型に囚われることのない、より良い形での料理提供を試みています。

喫茶ラヴィックのお勧めメニューは、先ほど挙げた『20食限定日替わりランチ』です。

日替わりランチは、旬の食材を用いており、栄養価・バランス共に優れた季節感のある内容となっております。月曜日から土曜日までの数量限定メニューで、早々に売り切れることもございますので、ご希望の方は早めのご予約をお願いいたします。

また、サイドメニューではありますが、『プリン』『コーヒーゼリー』等、手作りのメニューも取り扱っております。こちらは、卵・砂糖・牛乳などの自然の素材を用い、ラヴィックで日々手作りしている、保存料等を一切使用していない安全な一品です。まだお試しでない方は、ぜひご賞味ください。

年末に向け、新しいメニューもたくさんご用意しております。皆様のご来店、心よりお待ちしております。

